

## 施策名 104 港湾経営基盤の充実・強化

### 施策の目的

港湾経営における基盤が港湾ユーザーのニーズに適切に対応できるよう十分に整備され、最適な状態で維持される という状態にします。

### 施策の数値目標と達成状況

公共の陸域施設の供用面積	2009年度 実績値	142.15ha	達成 状況	C
	2010年度 目標値	143.99ha		
	2010年度 実績値	141.43ha		

達成状況の説明：目標が達成できず、かつ前年度の水準にも達しなかった

【目標項目の説明】

- ・四日市港の公共の陸域（けい留施設、臨港道路、荷さばき施設、保管施設等）の供用面積の和。

### 2010年度における取組と成果等

- 港湾施設の整備については、コンテナ船の大型化や物流需要の増加などに対応するため、2006年に一部を供用開始した霞ヶ浦北ふ頭国際海上コンテナターミナル（80号岸壁ふ頭用地）について、整備を完了し、2010年4月から全面供用を開始しました。
- 霞4号幹線については、天力須賀工業団地前の橋梁下部工、富双水路内の橋梁防衝工等が進められるとともに、事業主体である国と協力し、地元説明会の開催や関係行政機関との協議などを進めました。
- 四日市地区では、老朽化が著しく、早期の補修が必要な、第2埠頭8号岸壁基部エプロンの補修工事を実施しました。また第1航路の浚渫などを実施しました。
- ユーザーニーズ（荷さばき効率の維持・向上）及びコスト縮減等の観点から総合的に判断のうえ、四日市地区の簡易上屋を撤去し、跡地を荷さばき地として整備・供用しました。

### これからの課題等

- 東海・東南海地震の切迫性が指摘されるなか、市街地に近い四日市地区において、緊急物資輸送用の耐震強化岸壁の整備が必要です。

- 港湾施設の老朽化が進んでおり、維持補修に計画的に取り組む必要があります。
- 港湾施設の効率的な利用を図るため、利用者の移転費用と利便性向上を勘案し、荷さばき地等における貨物配置の調整を進める必要があります。
- 霞4号幹線については、関係行政機関等との調整及び協議を継続し、地元の理解を得ながら、事業主体である国と連携して事業を推進していく必要があります。

#### 2011年度（以降）における取組

- 四日市地区第3ふ頭15号岸壁において、耐震強化岸壁の整備を進めます。【戦略計画 事業 20202 へ】
- 泊地の浚渫を実施するほか、老朽化した岸壁及び物揚場については維持管理計画を策定して、計画的に改修・維持補修を行っていきます。【戦略計画 事業 10201、事業 20202 へ】
- 上屋等については、2008年度に実施した耐震診断と、これを踏まえて「耐震性維持（安全性確保）及び長寿命化（機能維持）」の観点から2010年度に取りまとめた改修計画をもとに、四日市地区F上屋〔旧庁舎〕から、順次、設計・施工を行います。また、物揚場の石積については、景観に配慮した修復を行います。【戦略計画 事業 10201 へ】
- 港湾施設がより有効に利用されるために、霞ヶ浦地区及び四日市地区の荷さばき地等を有効に利用できるよう調整し、ユーザーのニーズに柔軟に対応していきます。【戦略計画 事業 10102 へ】
- 霞4号幹線については、平成20年台後半の供用開始を目指して事業の促進を働きかけるとともに、事業主体である国と協力し、地元説明会の開催や関係行政機関との協議を引き続き行います。【戦略計画 事業 10103 へ】